

植物工場、壁面緑化、乾燥地農業等研究成果(例)

対応技術名	開発者等	概要	参考URL等
アジアモンスーンモデル植物工場	国際農研、農研機構、ソーラーフィールズ、三菱ケミカル、他	高温多湿地域向けアジアモンスーンモデル植物工場システムを開発し、国際農研の熱帯・島嶼研究拠点(石垣島)でトマト、イチゴで実証。閉鎖型苗生産システムによる苗安定生産技術の他、遮熱フィルム被覆条件下におけるLED補光やUV照射による生育安定化、新たな作型開発に取り組み、成果をアジアモンスーン地域を中心に展開予定。	https://www.jircas.go.jp/ja/release/2021/press202121#ref1
小型ソーラーパネルによる拍動灌水技術	農研機構、プティオ(米子シンコー)	100W程度の小型ソーラーパネルで駆動されるポンプで高さ1.5mに設置したタンクにくみ上げて、間欠的に点滴チューブに流して灌水を行うシステムであり、10a程度の面積であれば約20万円で導入可能。	https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/pdf/5-33_okayama.pdf
固化培地を利用した壁面緑化	みのる産業、他	タマネギの機械移植用の苗に使用される固化培地(天然の高分子材料で固化)を屋上緑化や壁面緑化用の植物の栽培基盤として活用。多年草やつる性植物を中心に展開し、灌水システムも開発済。	http://xn--cirt5kiv0b8mv.jp/item/list_green.php
耕地内休閒システム	国際農研、京都大学	西アフリカ・サヘル地域において草本性の植物が自生する休閒帯を設け、風食により飛散する土壌養分を補足し、次年は耕作することで増収が期待できる作付けシステム。	https://www.jircas.go.jp/ja/publication/research_results/200810